

5章 総合問題5

問題

【1】

ポイント

エッセイ風の小説。語彙もさほど難しくなく、読みやすい内容。(1)では、登場人物の心情などからその場面に適切な語を選択すること。選択肢は tense がやや難しい。(3)では2つの事柄を見つけなければならない。それぞれ別の箇所で述べられているので、注意して読み進めていくこと。下線部和訳では、文脈、場面設定に沿った自然な訳を心がけたい。

解答

- (1) ② e ④ a ⑥ d ⑧ c ⑩ b
(2) ③ f ⑤ g ⑦ h ⑨ i

(3) 生徒に触れること。

生徒の家庭を訪問すること。

(4) 「全訳」の下線部⑤, ⑦, ⑨を参照。

解説

- (1) ②空所②を含む文は「彼らが彼に言ったことの多くは（　　）であった。つまり、役に立たなかった。」の意。この or は「すなわち；言い換えれば」の意だと考えられるので、空所には didn't work と同様に否定的な意味合いを持つ語が入ると推測できる。選択肢の中では e vague (あいまいな) が適切。
- ④空所④を含む文は構文の理解が重要である。骨格となるのは The general disorder (at ~) convinced him that … の ‘S convince O + that 節’の構文で、that 節内では、the principal が S, was not going to be が V, much help が C に当たる。「学校での全体的な混乱のせいで、校長が立派な心や事態を改善しようとする（　　）な願望を持っているにもかかわらず、クインシーに関してあまり助けになりそうにないと彼は納得した。」の意。desire (願望) を修飾する語としては a sincere (誠実な) が適切。
- ⑥空所⑥が day を修飾していることから判断する。b pleasant ((天候が) 晴れて心地よい) も day を修飾し得るが、この文脈には合わない。d tense には「(情況などが) 緊迫した；張り詰めた」の意があるので、こちらの方がレビンの苦境を説明した文脈に合致する。
- ⑧空所⑧を含む文は「彼女は戸口の上り段に彼を見つけて、（　　）ように見えた。」の意。突然、息子の担任に訪問された母親の気持ちを表すのは、c surprised (驚いた) が適切。to find ~ は‘感情の原因・理由’を表す副詞用法の不定詞。

Ex. I was happy to hear the news of your success.

(あなたの成功の知らせを聞いて私はうれしかった。)

- ⑯空所⑯を含む文は「息子についての教師との会話をめったに（　　）でなかつた。」の意。前文で She seemed apprehensive. (彼女は心配そうであった。) と説明していることから、were rarely (　　) の部分は否定的な意味合いになると推測できる。b pleasant (愉快な；楽しい)を入れると、「めったに愉快なものではなかった」の意になり、文脈に合う。
- (2) ① pay no attention to ~ で「～にまったく注意を払わない；～を気に留めない」の意。
cf. Pay more attention to your mother's advice.
 (母親の助言をもっと注意して聞きなさい。)
- ⑦空所⑦を含む段落では、レビンがクインシーの脇の下をつかんで持ち上げ、彼の座席まで運んで行った様子が説明されている。空所を含む文は「クインシーの座席についた途端に、彼の力は（　　）。」の意。空所には out を入れて、gave out ((力などが) 尽きた) とするのが適切。
- ⑮空所⑮を含む Quincy had been put (⑯) his place の部分は Levin had put Quincy (⑯) his place と書き換えられる。put ~ in one's place (～に身のほどを思い知らせる) という表現に気づくことがポイント。
- ①ここはレビンが母親に学校での息子の様子を説明している箇所である。空所①を含む文は「今日クラスで何かが（　　）。」の意。クインシーを乱暴に落としていることから判断して空所には up を入れて、came up ((問題などが) 生じた) するのが適切。
- (3) レビンが「教師として、やってはいけない」と言っていた2つの事柄は ℓ. 32 He had been told … not to touch kids と ℓ. 39 home visits were another thing he had been told not to do で述べられている。解答としては、「生徒（の体）に触れること」、「生徒の家庭を訪問すること」とまとめるとよい。事柄を問われているので、「生徒に触れてはいけない」という形で答えるのは不適切。「～こと」とする。
- (4) ⑤ He saw no reason to do anything {(which was) asked of him by Levin} ,
- | | | | | |
|---|---|---|-------|---|
| S | V | O | 不定詞 | ↑ |
| | | | 形容詞用法 | |
- 関係代名詞 {who had almost no experience disciplining children} .
 非制限用法 S' V' O'
- see no reason to … 「…する理由がわからない [見出せない]」

○ anything asked of him by Levin 「レビンに求められた [言われた] こと」 ask O of ~ は「O (=人) に～ (=事・物など) を求める」の意。asked of him by Levin は anything にかかる後置修飾語句で which was を補うとわかりやすくなるだろう。

who は主格の関係代名詞だが、先行詞が Levin という固有名詞であることから非制限用法となっている。who 以下を Levin にかけて「…なレビン」としてもよいし、関係代名詞の前でいったん切って、「なぜなら [というのも] (彼は) …からだ」などと訳し下ろしてもよい。

○ have experience (in) …ing 「…した経験がある」

④ they were trying too hard to be

S V₁

what (= the thing which) <they thought> teachers should be,

C₁ C' 握入句 S' V'

and (were) not trying hard enough to be themselves.

V₂ C₂

were trying too hard to …, trying hard enough to … では, try to … というつながりに注目。

what they thought teachers should be 「教師のあるべき姿だと自分たちが考えるもの」 what teachers should be (教師のあるべきもの〔姿〕) という関係代名詞節に they thought が挿入されている。

○ be oneself 「自分らしくふるまう」

○形容詞・副詞 + enough to … 「…するのに十分なほど～」

⑤ Levin wondered

S V

if his failure to protect other children from Quincy

S'

had contributed to the sour mood {that usually enveloped his class}.

V' ↑ S" V" O"

O

○ wonder if … 「…ではないかと思う」

○ one's failure to … 「～(=人) が…できないこと」

Ex. My failure to keep a promise angered my mother.

(私が約束を守らなかったので母は腹を立てた。)

○ S contribute to ~ 「S は～の一因となる」

Ex. Does smoking contribute to lung cancer? (喫煙は肺ガンの一因となるのかな?)

全訳

レビン先生とファインバーグ先生のクラスの大混乱は、彼らの魅力や知性、活力が成功を保証してくれるだろうという、2人の想定をくつがえした。無秩序が支配した。子供たちは廊下を走り回り、彼らのほとんどは宿題をやってこなかった。騒々しさはいつものことだった。生徒たちはその新しい教師たちのアイビーリーグの学位と巧みな話には心を動かされなかつた。

例えば、ケインシーはバステイアン小学校でレビンのクラスにいた。彼は6年生であったが、そうは見えなかつた。彼の身長は5フィートと10インチで、しゃべり口が怒っていて、意地悪であった。彼は他の子供たちをいじめたり、からかったり、たたいたりした。彼は、やめるように言う教師たちを気にも留めなかつた。⑥彼にはレビンに要求されたことをしなければならない理由がわからなかつた。それに、レビンには子供をしつけた経験がほとんどなかつた。

レビンは校長と自分を担当している指導教師に助言を求めた。彼らが彼に言ったことの多くはあいまいで、役に立たなかった。学校での全体的な混乱のせいで、校長は誠実な心を持ち、事態を改善したいと真摯に願っていたにもかかわらず、クインシーに関しては、あまり助けになりそうにないと、彼は納得した。

レビンとファインバーグは退屈な会話の中で、②自分たちは、教師のるべき姿だと自分たちが考えるものになろうとしすぎていて、ありのままの自分でいようとする努力が十分ではなかったと考えついた。彼らは人生の他の部分では、素晴らしい天賦の才能があった。どうしてクラスではその才能が発揮できないのだろうか？特に緊迫した日に、レビンは、教師の行動に関するルールや法律に矛盾するかもしれない考慮することなしに、悲惨にもこの洞察に反応した。いつものように、クインシーは他の生徒たちに嫌がらせをしながら、教室中を歩き回っていた。「座りなさい、クインシー。」とレビンは言った。

クインシーはまるでレビンが存在しないかのようにふるまつた。

「もう座りなさい！」

反応がなかった。

レビンは、教室の真ん中にいるその少年のところに歩いて行って、彼の両脇の下をひっつかんで、持ち上げ、彼の座席まで運んだ。レビンはこれまで子供をそんなに激しく持ち上げて運んだことはなかった。レビンはパニックの中で、クインシーを落とさずに座席までたどり着くことができるだろうかと思った。座席に着いた途端に、彼の力が尽きた。その少年を座席に優しく降ろすどころか、レビンは自分が思っていた以上に力強く、彼を座席に落としまった。ひどくうらばいして、レビンは自分の机まで戻り、一体いつ首になるだろうかと考え始めた。

彼は数えられないほど何度も、生徒に触れないように言われてきた。そのことは絶対の禁止事項で、そのことが原因で訴訟ざたにもなるし、解雇されることもあった。彼は自分の仕事について悩んだ。彼はクインシーについて悩んだ。おそらく幼い頃から虐待されてきたであろう子供にとって、教師が彼をいすにどしんと落とすということは、何を表していたのだろうか？

しかし、レビンは、クインシーが身のほどを思い知らされた後に、クラス全体が目立って静まりかえったことに気づいた。その少年はがき大将だった。①レビンは他の子供たちをクインシーから守ってやれなかつたことが、普段クラス中に漂つていた険悪な雰囲気の一因であったのではないかと思った。

家庭訪問はやってはいけないと言われていたもう1のことであったけれども、レビンはクインシーの両親を訪問して、謝罪しようと決心した。両親との接触は電話と両親の学校への訪問に制限されなければいけないというルールになっていた。

レビンは気にしなかった。彼は自分がやったことを悪いと思っていたし、個人的に訪問して、謝罪するより他に選ぶべき道がわからなかった。彼は学校から遠くないところに、クインシーが住む小さな木造家屋を見つけた。ノックすると、クインシーの母親が戸口に出て來た。彼女はずんぐりしていて、彼女の6年生の息子よりも背が低かった。彼女は疲れているように見えた。「今晚は、お母さん。私はクインシーの担任で、レビンと申します。入ってもいいですか？」と彼は言った。

彼女は戸口の上り段のところに彼がいるのを見つけて驚いているように見えた。彼女は心配そうであった。息子についての教師との会話はめったに愉快なものではなかった。しかし、彼女は彼を家に招き入れた。レビンは長いすに座って、悲しみのこもった誠実なまなざしで彼女を見た。「お母さん、私は本当に残念に思っています。今日クラスであることが起きました。息子さんが他の子供たちをたたいているということをあなたが知っているかどうか私はわかりません。」と彼は言った。

「私は息子のことはわかっています。」と彼女はあいまいな調子で言った。

「それで、今日彼は私の言うことを聞こうとしなかったので、私は彼をいすまで運ばなければならなかったのです。」

彼女はうなずいた。

「私がそうすることを気にならないでいただけると助かるのですが。私はもう一度そうしなくて済むことを望んでいます。」

「先生がしなければならないことは何でもして下さい。」と彼女は言った。彼女は彼の顔に安堵の表情を見た。「聞いて下さい。あなたは家までやって来た最初の先生です。」と彼女は言った。「あなたが息子に対ししなければならないことは何でもして下さい。息子は私の話を聞きません。しなければならないことは何でもして下さい。」

注

ℓ. 1 ◇ chaos 「無秩序；大混乱」 ℓ. 12 disorder も同様の意味。

◇ assumptions that … 「…という想定」

ℓ. 3 ◇ race up and down ~ 「～を走り回る」

ℓ. 4 ◇ (be) unimpressed with ~ 「～に感動〔感心〕しない」

cf. (be) impressed with [by] ~ (～に感動〔感心〕して)

ℓ. 7 ◇ mean adj. 「意地の悪い；不愉快な」

◇ teased, taunted, slapped の共通の目的語が other children である。tease ~ vt. 「～をからかう〔いじめる〕」, taunt ~ vt. 「～をなじる〔あざける〕」, slap ~ vt. 「～をぴしゃりと打つ〔たたく〕」。

ℓ. 11 ◇ principal n. 「校長」

◇ the mentor teacher assigned to him 「彼担当の指導教師」直訳すると「彼（= レビン）に割り当てられた指導教師」の意。レビンはまだ新任教師なので、先輩の教師が彼の教育係として割り当てられたと考えられる。

ℓ. 15 ◇ It occur to ~ that … 「…ということが～に考えつく」

Ex. It never occurred to me that she was worried.

(彼女が悩んでいるとは私には考えもつかなかった。)

ℓ. 17 ◇ instinct n. 「生まれながらの才能」

ℓ. 18 ◇ disastrously 「悲惨にも；破壊的に」

ℓ. 19 ◇ conflict with ~ 「～と矛盾〔対立〕する」

ℓ. 20 ◇ wander vi. 「歩き回る〔ぶらつく；さまよう〕」

◇ harass ~ vt. 「～に嫌がらせをする；～を困らせる」ここでは、「付帯状況」を表す分詞構文で「…しながら」の意。

- ℓ. 22 ◇ acted (= behaved) as if … 「…かのようにふるまった」
- ℓ. 26 ◇ pick ~ up 「～を持ち上げる」 (= lift ~)
 ◇ that heavy 「そんなに激しく」 この heavy は副詞 (= heavily)。
- ℓ. 27 ◇ make it 「(目的地に) たどり着く」
 ◇ all the way to ~ 「～までずっと；はるばる～まで」
 e.g. run *all the way to* the station (駅までずっと走る)
- ℓ. 30 ◇ retreat to ~ 「～に退却する」
- ℓ. 31 ◇ fire ~ vt. 「～を解雇する」
- ℓ. 32 ◇ no-no n. 「禁じられたこと」
- ℓ. 33 ◇ dismissal n. 「解雇」
- ℓ. 34 ◇ mistreat ~ vt. 「～を虐待する」
- ℓ. 35 ◇ slam ~ into … 「～を…にドシンと置く」
- ℓ. 40 ◇ The rule was that … 「ルールは…ということだった」 that 節は補語になる名詞節。
- ℓ. 42 ◇ see no alternative to … 「…するよりも他の選ぶべき道がわからない」
- ℓ. 45 ◇ heavyset adj. 「ずんぐりした；体格のよい」
- ℓ. 52 ◇ neutral adj. 「あいまいな；はっきりしない」
- ℓ. 53 ◇ wouldn't … 「(どうしても) …しようとしなかった」 ‘(過去における) 強い固執・拒絶’ を表す。

Ex. She wouldn't go to the dentist, even though she was in considerable pain.

(彼女はかなり痛みがあるにもかかわらず、歯医者に行こうとしなかった。)

【2】

全訳

英語の単語を選択する際に、これに限ると決めてかかることは簡単ではない、いや正確には、容易ではあるが愚かなことである。大家が用いれば、英語を強力な道具とする豊かで変化に富んだ語彙は、未熟者にとってはかえって負担となるかもしれない。ⓐ自分の意図することを同じようにうまく表現してくれるようと思える単語を、辞書がとても多く提供してくれると、初心者は辞書にある最も長い単語を使ってみたくてたまらなくなることが多いが、これは、こうすることによって、文章を立派なものに見せたいと望むからである。しかし、実のところ、現代英語において、真の意味での同義語はほとんどないのだ。ⓑある単語を、別の語を辞書で定義する際のおおよその同義語として使うことができるからといって、その2つの単語がすべての文脈において等価であるということにはならない。単語選択の十分な能力は、長期に渡り練習をして、単語の歴史的な意味と、その単語が文章上および一般的に連想させるものをかなり理解できるようになってはじめて、獲得されるのである。

【3】

ポイント

1文が長い論説文調の日本文を英訳する際には、日本文全体の読み換えが不可欠である。1つひとつの語句にこだわりすぎず、全体の内容をより自然な英語で表すことに重点を置いてほしい。

解答例

① Probably one reason for the high frequency of violent scenes on TV programs is that crime and violence are subjects suitable for attracting and holding an audience's attention. We don't know yet if violence on TV leads to a direct increase in the crime rate. ② However, even if they are clearly fictional, using violent scenes too easily and frequently could give a distorted image of the real world.

別解

- ① There are a lot of violent scenes on TV shows, partly because crime and violence are useful themes to catch and hold the viewers' attention easily.
- ② Though they are fiction, (however,) the casual and frequent use of violence in TV programming may lead to a false view of the real state of our society.

解説

- ① 「テレビ番組に暴力シーンが多い1つの理由」を主語とし、「犯罪と暴力が…」以下を that 節で表す構文がまず考えられる。他には「テレビ番組には暴力シーンが多い」を主節とし、「犯罪と暴力が…」以下を理由を表す副詞節としてこれに続ける方法もある。「犯罪と暴力…」以下は「犯罪と暴力は主題である」とし、「主題」に「視聴者の注意を引き付け、つなぎ止めておくのに便利な」を後ろから修飾する構成が日本文に近い。
- 「テレビ番組に暴力シーンが多い」 the high frequency of violent scenes on TV programs, the high incidence of violent scenes on our television programs などのようにここを名詞句にして表すと、「～（の）1つの理由」を簡潔に表すことができる。節にするなら there are a lot of violent scenes ~や our TV shows include quite a few violent scenes とする表現が考えられる。
- 「～（の）1つの理由」「テレビ番組に暴力シーンが多い」を名詞句にして one reason for ~ is that …とするか、あるいは～ is partly because …；There are a lot of ~ partly because …のようにすればよい。断定を避けて「…であろう」という意味を出すのであれば probably を文頭に付けるか、one probable reason for ~とする。
- 「犯罪と暴力」ここは個々の犯罪事件や暴力行為について言及しているのではないで、不可算名詞として crime and violence とする。
- 「視聴者の注意を引き付け、つなぎ止めておく」attract [draw ; catch] and hold an audience's [(the) viewers' ; (the) watchers'] attention とすればよい。audience は、ある催しなどの観客全体を集合的にとらえる名詞なので、1つの催しについて言う場合は单数形で使う。

Ex. There was an *audience* of 1,000 at the concert.

(そのコンサートの聴衆は 1,000 人だった。)

cf. The circus attracted many *audiences* all over the country.

(そのサーカスは全国各地で多くの観客を集めた。)

- 「…するのに便利な主題」 subjects [themes : topics] suitable for …ing [fit to …] や useful [convenient] themes to … [for …ing] などが考えられる。
- ⑥「いかに作り物とはいえ」は譲歩構文で表すことになるが、その位置は文頭、または「暴力シーンをあまりにも安易に頻繁に用いることは」の次に挿入句〔節〕として入れるのが望ましい。文全体の主語としては、「暴力シーンをあまりにも安易に頻繁に用いること」を名詞または動名詞として簡潔に表現するのがよい。
- 「いかに作り物とはいえ」「たとえそれらが作り物であるとしても」と考えると, even if [though] they are (clearly) fictional となる。「作り物」は形容詞で fictional や fictitious、また不可算名詞で fiction としてもよい。
- 「暴力シーンをあまりにも安易に頻繁に用いること」 the thoughtless [casual] and frequent use of violent scenes, too easy and frequent use of violent scenes のように名詞 use を使って表現するか、動名詞を使って using violent scenes too easily and frequently とすればよい。
- 「社会の実態」 the real [actual] state of our society のような訳が日本語に近いが、テレビの中の作り物の世界に対して「実際の世界」ということなので the real world のようにしてもよい。
- 「～をゆがめた虚像」 a distorted image [view] of ～が適切。
- 「与えることになりかねない」「与える」はそのまま give や provide としても、「～を引き起こす；～につながる」と読み換えて lead to ～としてもよい。「…しかねない」は‘可能性’を表す can [could] や may [might] を用いて表せばよい。

【4】

解答例

I agree with this idea. First, the sooner children become familiar with English, the better they can acquire linguistic skills. Second, children in primary school, unlike junior high school students, can enjoy using English because they don't have to worry about the entrance exam. Therefore, children should start learning English at primary school. (53 語)

解説

ここでは、以下の手順を踏んで文章を構築していく。

①どの立場で論ずるか決める。

英語では最も大事なことを最初に示すのが一般的な書き方である。したがってまず自分の立場（賛成なのか反対なのか、または保留なのか）をはっきりと宣言することが必要になる。それぞれの立場を表明するのによく使われる表現を覚えておくとよいだろう。

②理由・根拠を述べる。

最初に述べた自分の立場を補強するために、しっかりととした「理由や根拠」を述べる必要がある。日本語でよいので、考え得る理由や根拠をメモしておき、その中から最も説得力があり、かつ自分が書きやすそうなものを選択する。50 ~ 60 語程度の問題であればせい

せい2つくらいでよいだろう。項目の数よりも「言いたいことがちゃんと伝わるか」が大事だということを忘れないこと。また、複数の理由を列挙する場合には、first, second(ly), moreover, finallyなどの表現を利用すると、採点者にも英文全体の構成がわかりやすくなる。

③語数に余裕があればもう一度、別の表現で自分の意見を述べて締めくくる。

これは必ずしも必要というわけではないが、仮に自分が賛成であるならば、その賛成であるということを再度訴えると効果的な英文になる。ここは冒頭の文と同じ内容（例えば「私は…に賛成である」ということ）を述べることになるわけだが、これとまったく同じ表現を用いたのでは工夫がないので、自分なりの言葉で表現し直して締めくくるようにしよう。

それでは上の手順に従って、この問題を考えていこう。次に示したのはあくまでも典型的なアウトラインなので、まったくこの通りにする必要はない。ただ、理由を列挙する際の表現や意見を述べる表現などの使い方は参考にしてほしい。

◇賛成の場合

主張 I agree with this idea.

+

理由1 First 「言語能力を身に付けるには、できるだけ早い時期からその言語に親しむのがよい。」

理由2 Second 「小学生は、中学生とは違って、入試のことを気にせずに楽しく学習できる。」

+

(意見) Therefore 「小学校で英語学習を始めるべきだ。」

◇反対の場合

主張 I disagree with this idea.

+

理由1 This is because 「今の小学生はすでに他教科の勉強などでとても忙しい。」

理由2 Moreover 「小学生はまだ日本語能力でさえ未熟であるのに、別の言語の習得まで求められたら混乱してしまう。」

+

(意見) Consequently 「小学校では英語学習をしない方がよい。」

◇保留の場合（保留の立場を認める問題は数少ないが、「ある面では賛成だが、別の面では反対」という場合に保留となる。）

主張 I'd like to reserve my opinion.

+

理由 The reason is that 「確かに言語習得は幼い時期から始めた方がよいという説もあるが、今の段階では小学生にしっかりと英語を教えられる授業方法が確立されていない。」

+

(意見) This is why 「私は今の段階では賛成も反対もできない。」

【5】

A.

解答

- (1) a (2) d (3) c (4) d

解説

- (1) 「この極めて精巧なコンピュータは考えられる最高のものだ。」
thing は形容詞で後ろから修飾する。
○ imaginable 「想像し得る」, imaginary 「想像上の」, respective 「それぞれの」,
respectful 「敬意を表した」
- (2) 「私が聞き取れるようにゆっくり話して下さい。」
○ so that S may [can ; will] … 「Sが…するために」
○ as though S V = as if S V 「まるでSがVであるかのように」
○ now that S V 「今やSはVなので」
- (3) 「彼は愚かだったのでそのパーティーを台無しにした。」
X as [though] S V , = Though S V X , となるが, though の場合には明らかに
譲歩の意味を表す一方, as の場合には理由を表すこともある。本問では意味内容か
ら理由にすべきである。
- (4) 「彼らは授業が終わるとすぐに教室を飛び出した。」
○ no sooner ~ than … 「～するとすぐに…」

B.

解答

- (1) when (2) before (3) soon (4) may

解説

- (1) (X) 「私たちが外出しようとした途端, 家が揺れた。」
(Y) 「人は時にその資格がないのに人からの感謝を期待することがある。」
○ gratitude 「感謝の気持ち」
○ entitle O to ~ 「Oに～の資格を与える」
- (2) (X) 「彼があまり遠くにいかないうちに雨が降り出した。」
(Y) 「まもなく太陽が昇る。」
○ It will not be long before S V 「まもなくSはVするだろう」
- (3) (X) 「彼と外出するよりも家にいたい。」
○ would (just) as soon … (as ~) 「(～するよりも) むしろ…したい」
(Y) 「ベッドに入るとすぐに彼はぐっすりと眠った。」
- (4) (X) 「物事を不完全にしか知らないくらいなら何1つ知らない方がました。」
○ may [might] as well ~ as … 「…するくらいなら～する方がました」
(Y) 「あなたが混乱するのは無理もない。このようなことが起こったことがなかった
のだから。」
○ may well … 「…するのももっともだ」

【6】

解答・解説

(1) d

文意より「幼稚園であれ大学であれ」と読む。

(2) c

not to mention ~ = not to speak of ~ = to say nothing of ~ (～は言うまでもなく)
がよい。not to say ～は「～とまでは言わないが」となり文法的には通るが意味的に
最善ではない。

(3) smile

(4) b

even if と‘譲歩’の接続詞がある以上は「笑顔を見せるのが『気が進まない』としても」
と考える。

(5) (笑顔を作る時に見せる) (白い) 歯のこと

この箇所は「友人を作る第一歩とは、笑顔を見せること」と読むべきであるから,
flash them your pearly whites = smile と考える。つまり「真珠のように白い『歯』
を見せてにっこり笑う」と解釈できる。

全訳

新しい学校の初日ほど恐ろしいものを想像するのは難しい。それが幼稚園であれ大学であれ、皆が神経質に感じて見知らぬ顔がぎっしり詰まった玄関へと入っていく——カフェテリアで一緒に座ってくれる誰かを探すなんて言うに及ばない。幸いなことに、どんな時であれ誰とであれ、打ち解けるお手軽な方法が1つある。何か気の利いた言葉を思いつく必要なんてない。ただ微笑むのだ。すぐにあなたは、より魅力的で自信に満ち、感情を共有できる頭のよい人に見えてくる。笑顔を強力なアクセサリーと考えなさい。笑顔はクローゼットの何よりも自身について語ってくれる。だから、たとえそれがあなたが最もしたくないことだとしても、友人を作る第一歩は、誰かの目を引き、あなたの真っ白な歯を見せてあげることなのだ。

【7】

解答

- (1) (By the 1970s,) physiologists were beginning to make some rudimentary sense of how the brain worked(.)
- (2) Women account for about 45% of the country's workforce(.)
- (3) This evaluation questionnaire will teach you to see yourself as other people see you(.)
- (4) Quite a few states have passed laws that forbid employers to discriminate against job seekers (just because they are smokers.)
- (5) (We) had to fall back on dried milk as fresh milk wasn't available(.)

解説

(1) ○ make sense of ~ 「～を理解する」

○ rudimentary [rù:dəmēntəri] 「基本的な」

make sense of ~ (～を理解する) に、限定詞の some と形容詞の rudimentary が

加えられ、make some rudimentary sense of ～となる。

- how the brain worked 「脳が働く方法；どのように脳が働くかということ」
worked は主節の動詞 were の時制の一貫性を受けている。
- (2) ○ account for ～「～を占める」
 - about ～「約～」
 - the workforce = the labor force 「労働力：雇用可能人口」
- (3) 「～を通して」に当たる前置詞 (through など) がないので、無生物主語構文だと考
える。「この評価調査は君に～を見る教えることになる」という日本文に読み
換える。「他人の目を通して」を「他人が君を見る通りに」と読み換えることもポイ
ント。
 - evaluation 「評価」 *cf.* evaluate 「評価する」
 - questionnaire [kwèstʃənèr] 「アンケート」
 - teach A to … 「Aに…することを教える」
 - as ～「～のように」(様態)
- (4) ○ quite a few 「かなり多数の；相当数の」
 - have passed laws 「法律を（議会で）通過させている」
 - forbid A to … 「Aが…するのを禁止する」
 - discriminate against ～「～に対して差別する」
- (5) 「～を間に合わせに使わなければならなかった」の箇所がポイント。fall back on とい
う熟語の知識があれば「～に頼らなければならなかった」と読み換えられる。
 - fall back on ～「～に頼る；～を最後のよりどころとする」
 - dried milk 「粉ミルク」
 - as は「旧情報の理由」を表す。
 - available 「利用できる；入手できる」

【8】

解答・解説

◆は『解体英熟語 改訂第2版』の参照番号を示す。

- (1) ignorant of ◆ 510
 - be ignorant of ～「～を知らない」
- (2) worthy of ◆ 514
 - be worthy of ～「～に値する」
- (3) possessed [obsessed] with [by] ◆ 519
 - be possessed with [by] ～「～にとりつかれている」
 - cf.* be possessed of ～（～を所有している）（文語） = possess ～ ◆ 518
 - cf.* possession (所有 (物))
- (4) sick [tired] of ◆ 521 [◆ 541]
 - be sick of ～「～に嫌気がさして〔うんざりして〕」
 - = be tired of ～； be disgusted by [at ; with] ～； be fed up with [about] ～

- (5) true of [applicable to] ◆ 522
 ○ be true of ~ 「～に当てはまる」
cf. hold true [good] 「当てはまる；有効である」
cf. true to ~ 「～に忠実〔誠実；正確〕な」
- (6) particular about [over] [fastidious in [about]] ◆ 526
 ○ be particular about [over] ~ 「～について好みがうるさい」
- (7) based [founded ; grounded] on ◆ 529
 ○ be based [founded ; grounded] on ~ 「～に基づいている」
- (8) familiar [acquainted] with ◆ 532 [◆ 535]
 ○ be familiar with ~ ① 「～に精通している」 ② 「～と知り合いである」 ◆ 535
 = be well informed about ~ ; have a thorough knowledge of ~ ; know ~ thoroughly ; be acquainted with ~ ; be at home with [in] ~
- (9) familiar to ◆ 533
 ○ be familiar to ~ 「～によく知られている」
- (10) acquainted with [to know] ◆ 535
 ○ be acquainted with ~ 「～と知り合いである」
 ○ get to know ~ 「～を知るようになる」
- (11) wrong with ◆ 537
 ○ something is wrong with ~ ; there is something wrong with ~ 「～はどこか具合が悪い」
Ex. What is wrong [the matter] with ~? 「～はどうかしたのですか。」
- (12) concerned about [for ; over ; at] [worried about ; anxious about [for]] ◆ 539 [◆ 490]
 ○ be concerned about [for ; over ; at] ~ 「～を心配する」 = be worried about ~ ; be anxious about [for] ~
cf. be concerned with [in] ~ 「～に関係〔関心〕がある」 ◆ 538
- (13) fit [suitable] for [appropriate for [to]] ◆ 542 [◆ 543]
 ○ be fit for ~ 「～に適している；～の準備が整った」
- (14) rich [abundant ; affluent ; plentiful] in ◆ 548
 ○ be rich [abundant ; affluent ; plentiful] in ~ 「～が豊富である」
- (15) short of ◆ 551
 ○ be short of ~ 「～が不足している」
- (16) independent of ◆ 552
 ○ be independent of ~ 「～から独立している」
 ⇔ be dependent on ~ 「～に依存している」 ◆ 553
 < depend on ~ 「～に頼る」
- (17) free from ◆ 555
 ○ be free from [of] ~ 「～ (=心配・苦痛・面倒など) のない」
 ○ 「当然義務的に負うべきものが免除されて」の場合には of が好まれる (税金等)。
- (18) free to ◆ 557

- be free to … 「自由に…することができる」
- (19) indifferent to [uninterested in] ◆ 558
 - be indifferent to ~ 「~に無関心で」
- (20) second, none ◆ 562
 - be second to none 「誰にも劣らない」 (←誰の2番目でもない)
 - as far as S is concerned 「Sに関する限り」